

「YAMA-INU」ビジュアル変更について、オフィス鹿より みなさまへ

10月6日に発表したビジュアルにおいて、コック役の丸尾のメイクが「ブラックフェイス」の表現にあたるのではないかとのご指摘をいただきました。

これを受け、オフィス鹿メンバーで話し合いを持ちました。

今作、Operetta『YAMA-INU』における「コック」は、「そもそも人間かどうか分からない、子供から見た恐ろしい謎の存在」として丸尾丸一郎によって脚色され、クリエイションに向かう予定であり、ビジュアル撮影時のメイクも「人間かどうか分からない闇の人物」をイメージしたもので、差別を助長する意図でなされたものではありませんでした。

ですが、全ての方に詳細な設定までを伝えることが難しいSNSやインターネットに、安易にメインビジュアルを発表してしまったことで、情報・画像だけを目にしてしまった方が「ブラックフェイス」の表現として不快に感じ、悲しい思いをされる可能性があることまで考えが至っておりませんでした。

これは制作、創作にあたった我々の想像力の欠如によるもので、

不快な思いをされた方がいらっしゃるかと思うと、反省してもしきれません。

ここに反省と深い謝罪をさせていただきます。本当に申し訳ありませんでした。

ビジュアルは、新たなものに変更し、上演時の「コックさん」のメイクも変更して創作・上演させていただきたいと思います。

「YAMA-INU」の前身となる、舞台「山犬」はこれまでに3度上演されてきました。

過去作では「コックさん」は平成初期の子供たちの日常生活において違和感がある存在にするという目的で、丸尾丸一郎が「異国の人物」として脚色・演出をしてきました。

今作の上演にあたり、「ブラックフェイス」に対するさまざまな議論があることなどを踏まえた上で、新たに作品においての人物設定や内容含めて、再考・精査し、現代に相応しい新たな作品に生まれ変わべく創作に向かっております。

過去作においても、創作側の「差別を助長する意図のないこと」が十分伝わる表現であったか、これまで見過ごされてきた多様な声が届くようになった現代であるからこそ、改めて勉強し、意識を高めてまいりたいと思っております。

最後に、改めて今回不快な思いをされた方、今作カンパニーのキャスト・スタッフを応援するファンのみなさまにお詫びいたします。

オフィス鹿 Operetta『YAMA-INU』制作メンバー 一同